



土壤汚染対策資料

～概況調査方法について～



調査対象地の分類

「工場又は事業場の敷地であった土地の全ての区域」または「3000㎡以上の土地の形質の変更が行われる土地のうち、掘削する部分」が調査範囲となるが、土地利用の履歴等の情報を把握した上で、調査対象地を土壤汚染が存在するおそれに応じて以下のように3種類に分類する。

A

..... “土壤汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる”土地

下記B、C以外の土地

B

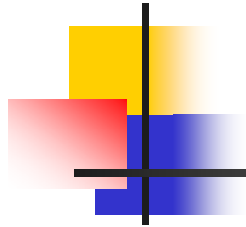
..... “土壤汚染が存在するおそれが少ないと認められる”土地

例えば、
事務所、作業場、資材置き場、倉庫、従業員用・作業車用通路、事業用の駐車場など

C

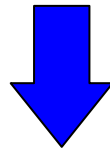
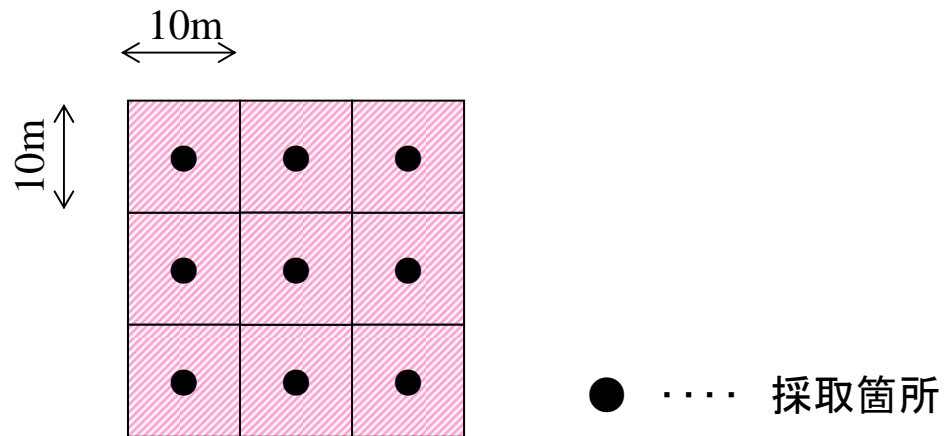
..... “土壤汚染が存在するおそれがないと認められる”土地

例えば、
山林、緩衝緑地、従業員用の居住施設や駐車場、グラウンド、体育館、未利用地など

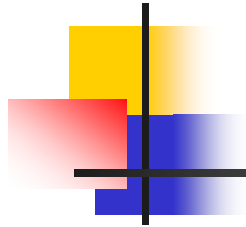


汚染の恐れが多い土地の調査

(A: 100m²単位で試料採取等を行なう場合)

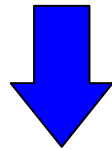
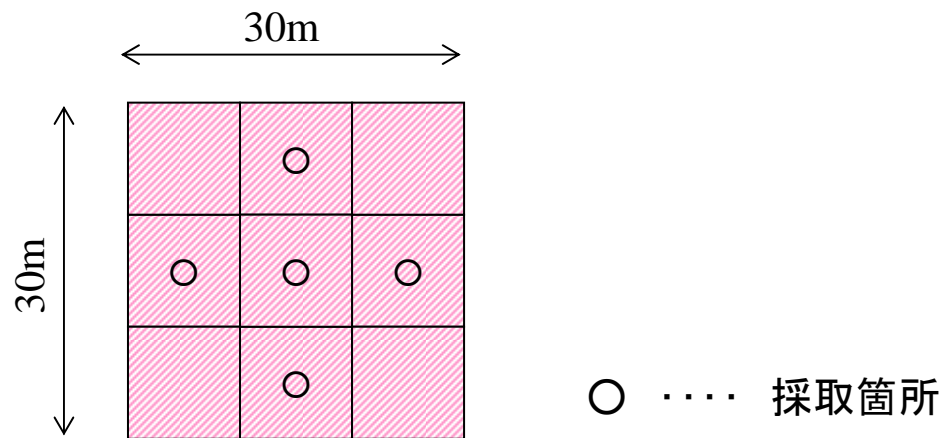


1点ごとに試料を採取する



汚染の恐れのない土地の調査

(B: 900m²単位で試料採取等を行なう場合)



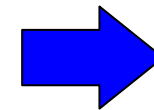
5点の採取試料を混合して1検体とする



調査対象物質の種類と調査方法

第1種特定有害物質(揮発性有機化合物)

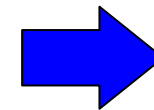
シクロロメタン、四塩化炭素、1,2-シクロロエタン、
1,1-シクロロエチレン、シス-1,2-シクロロエチレン、
1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、
トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、
ベンゼン、1,3-シクロロプロペン



土壌ガス調査

第2種特定有害物質(重金属等)

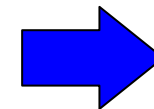
カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、
アルキル水銀、セレン、フッ素、ホウ素、シアン



土壌溶出量調査
土壌含有量調査

第3種特定有害物質(農薬等)

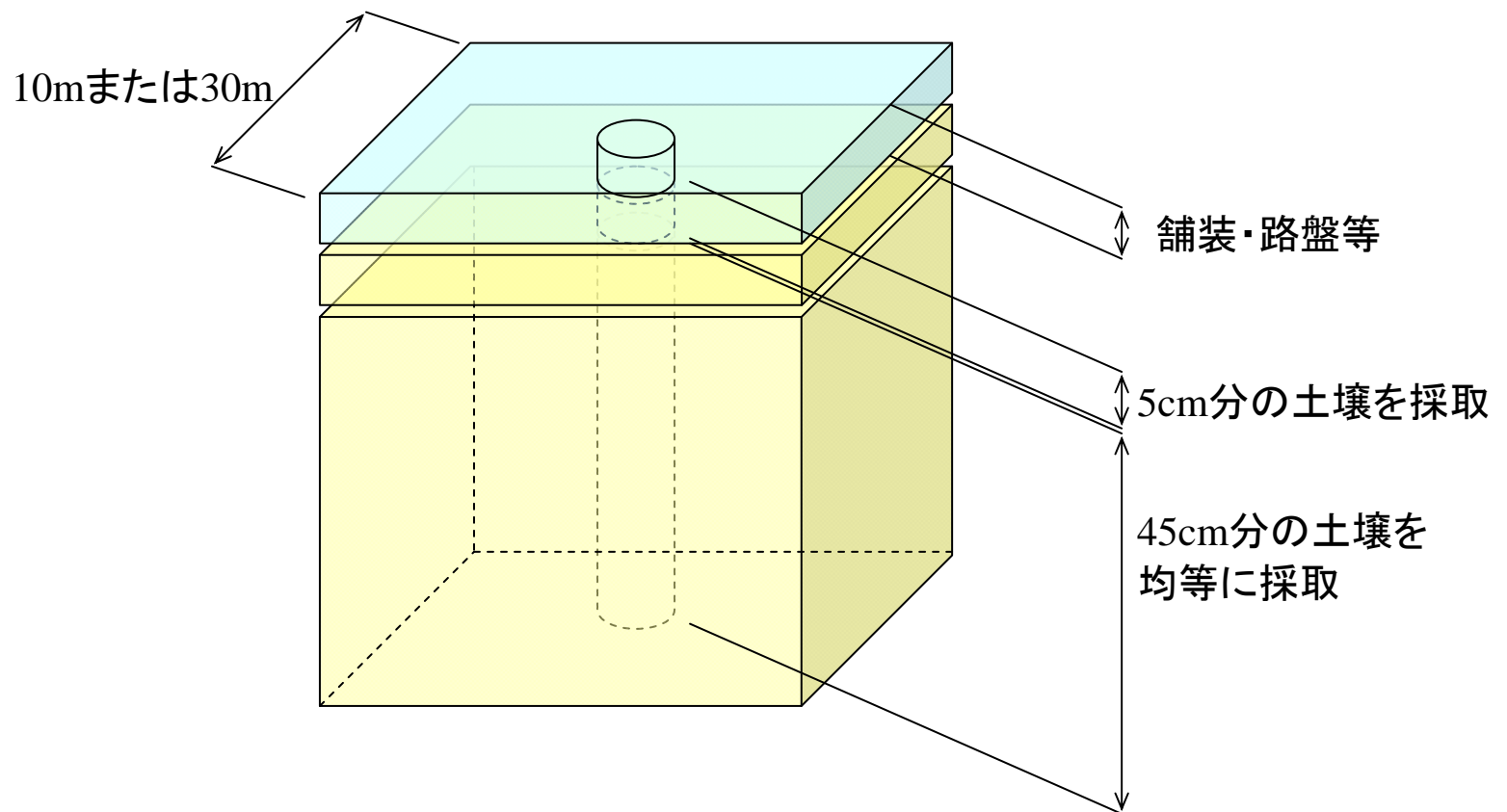
PCB、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、有機燐



土壌溶出量調査

試料の採取方法

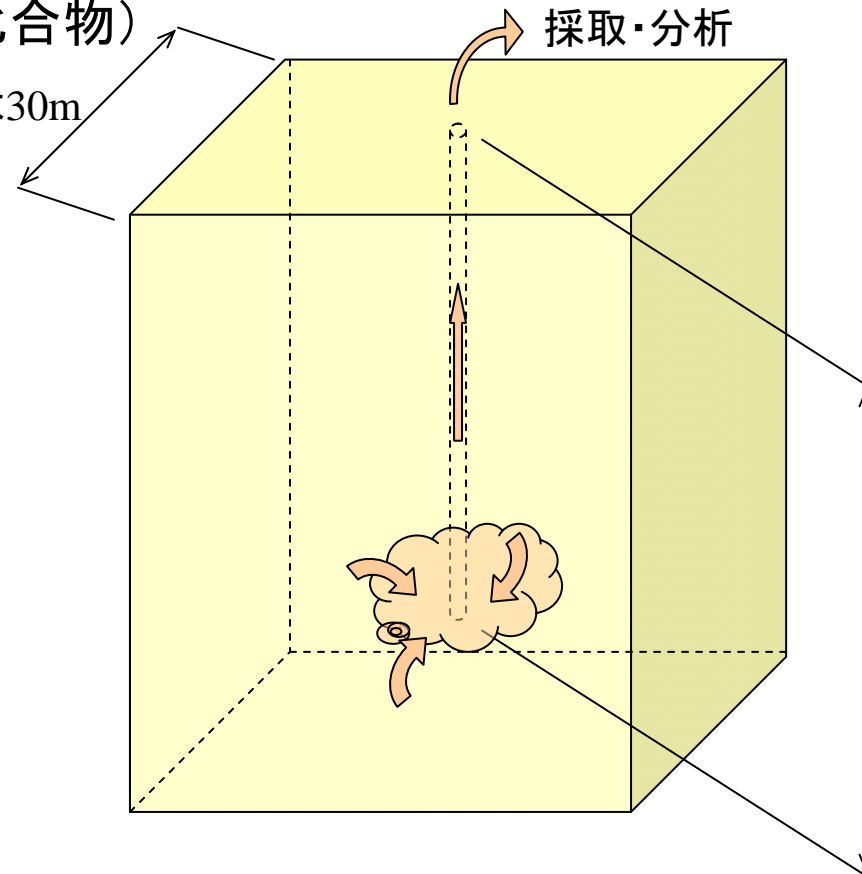
① 土壌含有量調査及び土壌溶出量調査 (重金属等及び農薬等)



試料の採取方法

② 土壌ガス調査 (揮発性有機化合物)

10mまたは30m



地表より概ね1mの地中
より土壌ガス採取

試料の採取



土間コンクリート削孔状況



土壌資料採取状況

土壤ガス調査



土壤ガス採取状況



土壤ガス分析状況

